

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

(1) 取組名	パートナーシップで進める”小さな希望”創出育成事業		
(2) 実施団体名	特定非営利活動法人NPO推進青森会議	(3) 対象地域	青森県大鰐町
(4) 代表団体名		(5) 推薦団体名	大鰐町

(6)実施した取組の内容	取組①	地域資源を活かした観光振興	
	実施主体	NPO推進青森会議・OH!!鰐元気隊	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		(1)着地型観光&交流システムに関する検討(検討委員会2回、部会3回) ・アンケート調査・グループインタビューの実施 ・先進事例調査(3箇所) (2)応援ファンクラブの立ち上げと会員募集(首都圏・大鰐:12月~) 首都圏と大鰐町を結ぶ仕組みとして応援ファンクラブを立ち上げ、会員を募集する。 (3)教育旅行誘致向け体験プログラム開発と旅行社への誘致活動 1)体験指導者の養成として、体験指導者養成講座(大鰐:8月に4日間)を開催するとともに、体験プログラムを開発する。 2)旅行社に対する誘致活動(1月) (4)パートナーシップで進める大鰐活性化のための意見交換会(大鰐町:2回)大鰐町の主な団体の合意形成を行う。 ・取組目標は(8)取組により得られた成果①と同じ	(1)観光振興&農工商連携検討委員会2回(8/22・2/中旬)と、観光振興検討部会3回を実施。 ・首都圏大鰐関係者47名を対象に実施した。 ・1月下旬に3箇所実施予定 (2)応援ファンクラブの立ち上げと会員募集 8月下旬~12月下旬打合わせ実施、1/13立上げ、2/16役員会、3/1設立総会 1/21現在の会員数:175名 目標の300名に向け、既存団体の関係者(8)成果①に記載)、OH!!鰐元気隊役員関係者の協働により、2月末には目標達成の見込み。 (3)教育旅行誘致向け体験プログラム開発と旅行社への誘致活動 1)体験指導者養成講座を開催(大鰐町:8/22~25、18名が認定) 同時に12個のプログラムを開発した。2/10に大鰐小学校5年生45名を対象に体験プログラムを実施し内容の検証を行う。 2)旅行社に対する誘致活動(2月下旬)／宣伝物を作成し、誘致活動を行う。 (4)パートナーシップで進める大鰐活性化のための意見交換会を2回開催(11/7・2/中旬)。行政・大鰐町の18団体が参加し、意見交換。 ・取組の結果と課題は成果①と同じ
	取組②	農工商連携による産業振興	
	実施主体	NPO推進青森会議・OH!!鰐元気隊	
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	(1)地域交流センターワニカムを拠点とした農工商連携・観光振興の検討(部会3回) (2)農産物販売の推進 1)「ワニカムとれたて市」の開催(大鰐町:9月~11月 10回) 2)農産物販売額の5倍増と協力農家の組織化(大鰐町:9月~2月) (3)大鰐温泉もやしのプレミアム化 1)大鰐温泉もやし関係者との意見交換会の実施(大鰐町:10月) 2)異業種ワークショップの開催(大鰐町:12月~1月 3回) 3)「(仮称)大鰐温泉もやし殿様御膳」レシピの会(10月:1回) 4)「(仮称)大鰐温泉もやし殿様御膳を食す会」の開催(東京・大鰐町各1回) 5)「(仮称)津軽の殿様気分ツアー」の実施(大鰐町:11月 1回) 6)大鰐温泉もやしの販路拡大のための調査と実践(首都圏:9月~) 7)大鰐温泉もやしプロモーションワークショップの開催(東京:11月 1回) 8)モチベーション&信頼関係の評価プロジェクト(大鰐町:2回) ・取組目標は(8)取組により得られた成果②と同じ	(1)農工商連携検討部会を3回開催した。 (2)農産物販売の推進 1)「ワニカムとれたて市」の開催(大鰐町:8月~11月 10回実施) ・つがる弘前農協大鰐支部・大鰐町活性化協議会産直友の会・大鰐商人の会との協働により実施 2)農産物販売額の5倍増と協力農家の組織化(大鰐町:8月~実施) ・農産物販売は5162(千円)(前年比129%) 実施時には組織化ができていなかったことと、商品の選定・価格設定等の技術不足により課題が残った。 ・農家の組織化は「ワニカム産直の会」を呼びかけ11名で立上げ。1/21現在の会員数38名。目標50名に向け現在勧誘中。つがる弘前農協大鰐支部・大鰐町活性化協議会産直友の会の積極的な協力により、2月末には目標達成の見込み。 (3)大鰐温泉もやしのプレミアム化 1)大鰐温泉もやし関係者との意見交換会を実施。もやし生産者5事業者4中事業者6名参加。うち2組は後継者を伴って参加。 2)異業種ワークショップは3回開催した。 3)「大鰐温泉もやし殿様御膳」レシピの会開催。レシピ7種開発。 4)「大鰐温泉もやし殿様御膳を食す会」の開催(2回:11/29東京、1/7大鰐) 5)「津軽の殿様気分ツアー」の実施(大鰐町:1/11実施) 6)9月には青森県アンテナショップで販売、12月にはもやし専門店のメニューへの採用が決定。1月はベジタブル&フルーツマイスター協会直営店でのテスト販売を行っている。2月からの本格販売に向けて取引条件について調整中。 7)大鰐温泉もやしプロモーションワークショップの開催(東京:11/29) 8)モチベーション&信頼関係の評価プロジェクト(2回:11/25、2/上旬) ・取組の結果と課題は成果②と同じ	
取組③	住民主導による地域公共交通の再構築		
実施主体	NPO推進青森会議・OH!!鰐元気隊・グリーンエネルギー青森		
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	(1)利用実態の把握と現状分析(大鰐町:10月~平成21年1月) (2)モデル地域での小規模な実証実験の実施(大鰐町:12月) (3)公共交通再構築に向けた(仮称)おおわに公共交通地域協議会の開催(2回) (4)公共交通再構築の実行部隊となるボランティア組織の立ち上げ ・取組目標は(8)取組により得られた成果③と同じ	(1)町民向けのアンケート、路線住民対象のワークショップを4回、先進事例調査2箇所、公共交通研究会3回を実施 (2)モデル地域での小規模な実証実験の実施(大鰐町:1/26) (3)「おおわに公共交通地域協議会」の開催(2回:12/3、2/4) (4)枝線に沿った住民10名が中心になって立ち上がった。ボランティア組織準備会12/3、ボランティア組織会1/18、ボランティア組織コアメンバーミーティング2/上旬実施。 ・取組の結果と課題は成果③と同じ	

(7)実施体制	平成20年度取組実施における体制・役割分担		取組の実施を踏まえた反省点		
	<ul style="list-style-type: none"> ・OH!!鯛元気隊 取組①～③における各事業の実践 ・大鰐町 取組①～③における各事業の支援・連携 ・NPO法人グリーンエネルギー青森 取組③における公共交通調査 ・パートナーシップを進める大鰐活性化のための意見交換会(取組①②) 大鰐町・青森県(企画課)・大鰐町観光協会・商工会・温泉旅館組合・連合婦人会・つがる弘前農協大鰐支部等大鰐町の18団体がメンバーとなり開催 ・おおわに公共交通地域協議会(取組③) 大鰐町・青森県・東北運輸局・商工会・区長会・小中学校およびPTA・バス鉄道運行者等16団体により開催 ・青森公立大学との連携 佐々木俊介教授・遠藤哲哉教授・井上隆一郎教授を専門家として招致 ・専門家との連携 野菜ソムリエ、流通コンサルタント、食関係の編集者等による指導・助言 ・トータルファシリテーターによる指導・助言 地域活性化伝道師の清水慎一氏(株)JTBC常務取締役)を招聘 		<ul style="list-style-type: none"> ・取組①における「(仮称)応援ファンクラブ」の立ち上げについては、当初首都圏に現存する有志による団体それぞれ活動している状況であった。地元協力団体であるOH!!鯛元気隊、青森公立大学教授、その他専門家による検討・提案を行ったところ、町との連携により、既存の応援団体をまとめあげ、無料会員枠を作ることで、新たな会員も気軽に参加できる1つの「応援ファンクラブ」を組織化することができた。 ・大鰐活性化のための意見交換会は、行政・町内の主な18団体が参加し、現在の大鰐の問題点を共有することで、地域全体が同じ目標を持って協働・連携できる基盤作りを進めることができた。 取組②における「ワニカム産直の会」の結成に当っては、つがる弘前農協大鰐支部・大鰐町活性化協議会産直友の会との連携により、ワニカムでの販売者の囲い込みに成功した。 ・大鰐温泉もやしのプレミアム化では、もやし生産者との粘り強い話し合いにより、5名の生産者には東京で開催した「殿様御膳を食す会」に参加してもらうとともに、東京での販売の現場も見学してもらった。その結果、現状で可能な限り最大の「増産」を約束してもらうことができた。また、青森公立大学教授、野菜ソムリエ・流通コンサルタント等の専門家によるアドバイスを踏まえて販売戦略を立て、首都圏の新たな販売先を獲得することができた。 取組③では、グリーンエネルギー青森による大鰐町民対象のアンケートを実施した。また、公共交通地域協議会は、大鰐活性化のための意見交換会同様、問題点の共有や今後の連携・協働のために効果的であった。 		
(8)取組により得られた成果	○成果1→	大鰐を(第2の)ふるさとと思ってくれる応援団の立ち上げと会員の組織化			
		H19	H20(当初予定していた目標)		
		大鰐を(第2の)ふるさとと思える人が気軽に参加できる応援組織がない		「(仮称)おおわに応援ファンクラブ」の立ち上げと会員300名の組織化	
		H20(実際に得られた成果)			
		<ul style="list-style-type: none"> ・大鰐を応援する組織として、津軽あじら衆の集い(会員146名)、東京大鰐異業種交流会(80名)、大鰐応援団(30名)があった。しかし、あじら衆の集いは存続が難しい状況に陥り、他の団体も活発な活動とは言えない状況にあった。町・OH!!鯛元気隊と連携しながら各団体と協議を重ねた結果、新しい応援ファンクラブを立ち上げることができた。 ・組織の名称は、ケツパレ!大鰐!!「津軽あじら衆」とし、7名の発起人で立ち上げた。会員数は、申込受付者65名、予約申込者110名、計175名。あじら衆の集いやOH!!鯛元気隊役員との協力の下、合計300名の会員登録に向け、現在勧誘中であり、2月末までに達成する見込みである。 ・応援ファンクラブのアンケート調査では大鰐を応援したいが気軽に参加できる会がないこと・大鰐町や大鰐関係者との交流をしたいがする場所がないという課題があり、ファンクラブも立ち上がったが、本格的な活動をするための体制作りが整っていないため、次年度以降取組んでいく。 ・今年度は教育旅行誘致により観光振興を図るための体験指導者の育成はできたが、ワニカムを活用した体験プログラムの提供まではいかなかった。 			
	○成果2→	1)ワニカムを拠点とした農産物販売の促進と協力農家の組織化 2)大鰐温泉もやし生産者等のモチベーションアップと信頼関係構築			
		H19	H20(当初予定していた目標)		
		1)ワニカム地元農産物販売額400万円 協力農家21件 2)大鰐温泉もやし生産者の増産意欲がなく、関係者の連携が不十分		1)ワニカムでの地元農産物販売額2000万円(5倍増)と協力農家50件の組織化 2)異業種ワークショップ等の実施による関係者のモチベーションと信頼関係の向上	
		H20(実際に得られた成果)			
		<ul style="list-style-type: none"> ・ワニカムとれたて市を10回行ったが、協力農家数が既存のままだったことと、商品選定・販売価格設定等の技術不足により、販売額は目標に満たなかった。ただ、農家は販売場所を求めており、希望者を募ったところ31名がワニカムでの農産物販売を希望した。組織化するべく、呼びかけ人11名により「ワニカム産直の会」設立し、現在の会員は38名。今後JAつがる弘前大鰐支部と大鰐町活性化協議会産直友の会の協力を得て、会員50名に向け勧誘中であり、2月末までに達成する見込みである。 ・今後の課題は、ワニカムのスペースの有効活用、会員数のさらなる拡大、会員の販売技術向上等であり、施設管理者と産直友の会が連携して、農産物販売促進のために、取り組んでいく必要がある。 ・大鰐温泉もやし生産者5事業者7名のうち、一番着手の生産者が全面的に増産に協力することを申し出てくれた。その話を受けて、新たに青森県アンテナショップ「北彩館」でのコンスタントな販売(週1回100把)と、都内のもやし料理専門店「もやし屋」でのメニュー化、ベジタブル&フルーツマイスター協会直営店「Ef(エフ)」でのテスト販売(1/11・12、21・22実施)を行うことができた。もやし屋では、こちらの想定価格(1把300g:368円)で購入してもらえた。また、Efの直営店2店舗で価格調査を兼ねて、地元の2倍の価格(1把:420円)でテスト販売した結果、両店舗で取り扱いたいとの申し出があり、現在通常取引に向けて調整中である(450円で販売予定)。 ・今後の課題は、安定的な供給をするための生産量拡大と地元で首都圏向けの販売を担う事業者の力量向上である。 			
○成果3→	地域公共交通の再構築に向けた合意形成と実施主体の立ち上げ				
	H19	H20(当初予定していた目標)			
	合意形成の場・実施主体のいずれもが存在しない。		「(仮称)おおわに地域公共交通協議会」の開催と実行部隊となるボランティア組織の立ち上げ		
	H20(実際に得られた成果)				
	<ul style="list-style-type: none"> ・「おおわに地域公共交通協議会」では、従来あったバス路線廃止のための協議会「大鰐町地域公共交通会議」のメンバー8名に、新たにバス以外の交通事業者・小中学校・PTA等10名が加わった合計18名で現状と課題について話し合った。その結果、法定協議会の立ち上げの含め、課題解決に向け議論を重ねていくことが確認された。 ・ボランティア組織については、12月の組織準備委員会を経て、1月に10名で組織会を行った。組織名は「おおわに交通ボランティア な・どき隊」とし、バス路線の枝線終点地区の住民が中心となり、今後の大鰐町の交通に関する現状把握と課題解決に向けた問題提起を行うなど、活発な議論が行われている。 ・今年度は実行部隊が立ち上がり小規模な実験実施にとどまったが、次年度以降は、本格実証実験に向けて取組・実践を行っていく。 				

(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点

・今年度最大の取組成果は、大鰐温泉もやしを首都圏で高級食材として売れるための基盤整備ができたことである。実際、大鰐で1把190円で売っているもやしを、Efでは420円、北彩館ともやし屋では368円で売れることになった。

・ただ、2～3月の出荷予定量は、週あたり200把程度にとどまっている。積極的に営業をかければ、取扱について希望のあった高級惣菜の「アール・エフ・ワン」をはじめとして販路を拡大することは難しくはないが、生産量の拡大を図らなければ安定供給できない状況にあり、来年度に向けた最大の課題は、生産量の拡大である。課題を解決するために生産の効率化、後継者を増やしていくための生産場所の確保や生産方法の指導等環境整備が急務となっている。一方、全国放送のTV番組(12/5NHKおはよう日本、1/8TBSピンポン！2月日本テレビ世界一受けたい授業)で取り上げられる等、知名度の向上は進んでいるので、生産者の協力を得ながら、安定的な販売体制を構築することが求められる。首都圏向けの販売を担うプロジェクトおおわに事業協同組合(OH!!鰐元気隊が母体となり法人申請中)は、高価格で安定的に販売するための力量をつけていく必要がある。

・大鰐町にとって、温泉もやしは最も知名度の高い大鰐を売れるための戦略商品と位置づけられる。温泉もやしのプレミアム化に取り組みむと同時に、他の農産物の販売に結びつけることや加工品の開発に取り組みむ必要がある。

・首都圏での購買層を活性化するためには、店舗での販売も重要であるが、大鰐のものを積極的に購買してくれるファンづくりを進める必要がある。応援ファンクラブ会員に対してFAXやメールで情報発信をする等働きかけを強め、ネットショップ開設等の取組をする。さらに、都市と地方の交流拠点を狙っている「リーダーズサロンなみへい」(東京都神田)を活用して、会員の方が自発的積極的に協力してくれるような仕掛け作りを行っていく。

・今年度の取組で、大鰐温泉もやしの取組みに代表されるように、事業名の通り「パートナーシップで“小さな希望”」を創出することができたと考えている。小さな希望を創出する過程では、多くの方が会議に自発的に参加し今回の取組を理解した上で、従来の垣根を越えた協力体制ができたことで、これまで切れていた人々の関係性を少しずつ結び直すこともできている。来年度、この小さな希望を大きく育てていくことによって、地域の将来に夢と希望の持てる道筋をつけることにつながると確信している。

	当初提案に予定していた平成21年度以降の展開	今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度
(10)平成21年度以降の活動の見込み	<p><取組①「地域資源を活かした観光振興」></p> <p>(1)民間主導のプロデュース組織の立ち上げ</p> <p>(2)SNSの立ち上げと「(仮称)おおわに応援ファンクラブ」会員の拡大 目標：平成21年度500人 平成22年度750名 平成23年度1,000名</p> <p>(3)修学旅行誘致に向けた取組を推進 目標：平成23年度1,000名、平成24年度2,000名、平成25年度4,000名</p>	<p>(1)応援ファンクラブ「津軽あじら会」の会員拡大と首都圏での積極的展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業主体 NPO推進青森会議 津軽あじら会 大鰐町 Pおおわに OH!!鰐元気隊 ・応援ファンクラブ「津軽あじら会」会員を現在の300名から600名に拡大する。 ・首都圏と大鰐町の交流促進を図るための具体的な仕組みを検討し実践する。特に、都市と地方の交流拠点を狙っている「リーダーズサロンなみへい」で、学習会やイベントを開催することによって、会員拡大や特産品の販売に結びつける仕組みを定着させる。 <p>【活用を希望する制度】地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額300万円)</p> <p>(2)地域交流センターワニカムの活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業主体 NPO推進青森会議 プロジェクトおおわに事業協同組合 OH!!鰐元気隊 各専門家 ・ワニカムは現在、指定管理者を募集しており、プロジェクトおおわに事業協同組合(以下Pおおわに)のみが応募中である。 ・今春の指定管理移行後、観光振興と農商工連携の拠点としての機能を発揮し、ワニカムを活性化させることが求められる。そのためには、昨年度3300万円の赤字を黒字化できるような基盤整備が急務となっている。安定的な運営に向けた経営支援を行いながら、集客増を図る各種取組を実践し施設の活性化を進める。 ・また、平成22年度の新幹線青森駅開業のチャンスを生かし、ワニカムも活用した教育旅行の誘致に向けた取組を継続する。 <p>【活用を希望する制度】地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額450万円)</p>
	<p><取組②「農商工連携による産業振興」></p> <p>(1)鰐カムを拠点とした農商工連携の取組実践 協力農家組織化目標：平成21年度100件、平成22年度150件、平成23年度200件</p> <p>(2)高級食材としての販売による大鰐温泉もやしの増産 目標：平成21年度～23年度 毎年20%増</p>	<p>(1)ワニカムを拠点とした農商工連携の取組実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業主体 NPO推進青森会議 ワニカム産直の会 Pおおわに OH!!鰐元気隊 ・「ワニカム産直の会」の協力農家を100件に増やし、魅力ある商品構成で販売促進につなげる。「ワニカム産直の会」とPおおわにが密接に連携し、ワニカムの屋内・屋外のスペースを有効に活用し販売面積を広げる。また、会員の販売技術向上を図りながら、売れる仕組みを検討、実践する。 ・インターネットでの農産物販売の仕組みを検討、実践する。 <p>【活用を希望する制度】地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額300万円)</p> <p>(2)大鰐温泉もやしの増産と販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業主体 NPO推進青森会議 Pおおわに もやし生産者 ・現在の生産者に、もやしを増産してもらうための生産効率の向上は不可欠である。生産現場での課題を把握した上で、その解決策に取り組む。また、現在の生産者5事業者が増産しても、今後の需要増加に対応することは難しい。新たな後継者がもやし生産に取り組めるような環境整備に取り組む。 ・生産者のモチベーションを高めつつ、首都圏向けの販売を担うPおおわにを支援し、高価格で取引してくれる販売先を引き続き拡大する。また、もやしの加工品開発に取り組む。 <p>【活用を希望する制度】地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額450万円)</p>
	<p><取組③「住民主導による地域公共交通の再構築」></p> <p>(1)新たな公共交通システムの実証実験 コミュニティバス・オンデマンドタクシー等の本格実証実験</p> <p>(2)民間主導による公共交通の再構築実現</p>	<p>(1)コミュニティバス・オンデマンドタクシー等の本格実証実験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体 NPO推進青森会議 おおわに交通ボランティアな・どさ隊 <p>(2)民間主導による公共交通の再構築実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体 NPO推進青森会議 おおわに交通ボランティアな・どさ隊 <p>【活用を希望する制度】東北運輸局 地域公共交通活性化・再生総合事業に申請予定</p>

パートナーシップで進める“小さな希望”創出育成事業(青森県大鰐地域) - NPO法人NPO推進青森会議 -

◆主な実施取組の内容◆

取組①「地域資源を活かした観光振興」

■実施取組内容

(1) 応援ファンクラブの立ち上げ

「ケッパレ！大鰐！！津軽あじやら会」の立ち上げ

↓
会員300名 ※2月末までに達成の見込み

★現存する3つの大鰐町を応援しようという団体が、町との連携により1つに統合。新たな会員も加わり、応援活動をはじめること。

(2) 教育旅行誘致に向けた活動

体験活動指導者18名の創出・12個のプログラム作成

(3) 「パートナーシップですすめる大鰐活性化のための意見交換会」の実施

行政・大鰐町主要18団体が集まり、問題点を共有することで協働・連携できる基盤作りが進んだ。



取組②「農商工連携による産業振興」

■実施取組内容

(1) 農産物販売の推進

協力農家の組織化

「ワニカム産直の会」の立ち上げ・会員50名

※2月末までに達成の見込み

★JAつがる弘前大鰐支部・大鰐町活性化協議会産直友の会と連携により、協力農家の困り込みに成功

(2) 大鰐温泉もやしのプレミアム化

生産者との信頼関係の醸成によるもやしの増産と温泉もやしの新しい販路の獲得

- ・北彩館(青森県アンテナショップ・週100把販売)
- ・もやし屋(渋谷もやし料理専門店でのメニュー化)
- ・ベジタブル&フルーツマイスター協会直営店でのテスト販売の実施と本格販売

★関連事業

- ・異業種ワークショップの実施(3回)
- ・「大鰐温泉もやし殿様御膳」レシピの会(1回)レシピ7種開発
- ・「大鰐温泉もやし殿様御膳を食す会」の実施(東京・大鰐各1回)
- ・「津軽の殿様気分ツアー」の実施(1回)
- ・専門家による「大鰐温泉もやしプロモーションワークショップ」の実施(東京:1回)



取組③「住民主導による地域公共交通の再構築」

■実施取組内容

(1) 「おおわに公共交通地域協議会」の開催

現存する「大鰐町地域公共交通協議会」

メンバー8名にバス以外の事業者・

小中学校・PTAなど10名を加えた合計18名で構成。

★未来の大鰐町の交通のために、現状認識と問題共有を行い、今後の方向性について積極的な議論。

(2) 公共交通再構築のための

実行部隊となるボラ

ンティア組織の立ち上げ

町民有志による「おおわに交通ボランティアな・どさ隊」が立ち上がった。



★生産者との意見交換(5事業者中4事業者6名参加。2組が後継者を伴ってきた)、ワークショップの実施等を経て生産者との信頼関係が醸成。その結果、販売に協力してくれる若手生産者が増産に協力。3つの販路の獲得に結びついた。



◆取組実施による成果・今後の展開◆

◆21年度の取組◆

パートナーシップで創出した
“小さな希望”を大きく育てる

- (1) 応援ファンクラブ「津軽あじやら会」の拡大
- (2) 地域交流センターワニカムの活性化
- (3) ワニカムを拠点とした農商工連携の取組実践
- (4) 大鰐温泉もやしの増産と販路拡大

地域の将来に夢と希望が
持てる道筋を作る

◆地方再生の目標像◆

- ① 自ら稼げる地域
- ② ローコストでの公共サービスの提供
- ③ パートナーシップ型地域経営の推進

